

こまがた元気ビジョン

計画期間:令和3年度～令和5年度

住みよく元気な 「こまがた」の創造

～田舎暮らしはステータス～



南原堤

こまがた元気会

こまがた元気会について

駒形地区の将来を考えようと地域活動を行う関係団体等により平成24年に発足した「駒形ふるさと会」の取組を継承・発展させるものとして、令和元年7月7日に「こまがた元気会」が発足しました。

こまがた元気ビジョンとは

こまがた元気会では、駒形地区の現状と課題を踏まえながら、少しでも地区の発展に貢献しようと、地域の皆さんとともに地域住民が主体となった様々な取組を行ってきたところですが、住民主体の取組をより計画的・継続的に展開することが重要であると考え、「こまがた元気ビジョン」を策定することとしました。

策定にあたっては、専門の部会を立ち上げ、アンケート調査や住民ワークショップ等で駒形地区の皆さんの協力をいただき、できるかぎり幅広い意見を反映したものとすることができました。

このビジョンでは、駒形地区を将来にわたって自らの力で守り、創り上げていくための目標や基本方針を定めています。

今後、駒形地区の住民全員が共に知恵を出し合い、力を合わせ、行政などの関係機関とも連携・協力しながら、<元気な駒形の里づくり>を行うための総合的な指針となるものです。

駒形地区の将来像

将来像は、将来に向けて目指すべき駒形地区の姿を示すものです。
地区の現状と課題から、駒形地区の目指すべき将来像を次のように設定しました。

住みよく元気な「こまがた」の創造 ～ 田舎暮らしはステータス ～

この将来像には、文字通り暮らしやすく、活気あふれる駒形の里を、私たち一人ひとりが誇りと夢を持って創っていくという思いが込められています。

なぜ、ビジョンが必要なの？

いわゆる「平成の大合併」により、行政区域の広域化、行政運営の合理化等、行政サービスのあり方が変化し、また、全国的な少子・高齢化、人口減少の進行は、ここ駒形地区も例外ではなく、耕作放棄地、空き家、鳥獣被害などのこれまで見られなかった新しい地域の課題が生じています。

このようななかでは、行政主導でまちづくりを進めるのではなく、地域のことは住民自らが意思決定をしながら運営していくという、住民による自律的で主体的な自治運営が求められています。

その自治を行うためには、現状を把握し検証しながら、地域を今後どのようにしていくのか、地域の将来像を定め、自分たちの手で地域づくりを進めることが重要です。

今こそ、状況をよく見据え、しなやかに対応しながら、10年後、20年後、さらにはその先の将来にわたって持続・発展する駒形地区をデザインしていきましょう。

駒形地区の課題

駒形地区の人口等のここ5年間の推移は、下表の通り人口・世帯数の減少と高齢化が確実に進行していることが見られ、子育て支援や高齢者福祉への取組が、まさに今求められていることが分かります。

人口・年	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2025 (R7)	2030 (R12)
男	1,056	1,037	998	975	957		
女	1,176	1,140	1,021	987	956		
計	2,232 (2,127)	2,177 (2,072)	2,019	1,962	1,913	1,526 (予測値)	1,233 (予測値)
世帯数	822 (717)	816 (711)	706	701	694		
65歳以上の人口	915	891	797	811	807		
高齢化率	40.99	40.93	39.47	41.34	42.19		

※ H29 までは特別養護老人ホーム・エルムホーム(入所定員110名)入所者数含む。
※ () 数値は、当該施設相当分105として平成28年・29年分から除いた参考値。

少子高齢化の進行等を原因とした、駒形地区の課題は

- ① 令和元年度に喜多方市が行った市内全行政区長への聞き取り調査結果(駒形地区分)
- ② 令和2年8月駒形地区生活支援支え合い会議委員アンケート結果
- ③ 令和2年8月～10月に3日間にわたって実施した住民ワークショップで議論された地域共通課題 等で示された課題を踏まえて整理し、また、これらの課題を大きくりに分類し、今後の『対応すべき分野』として下のとおりまとめました。

駒形地区の課題

- 農業後継者・担い手不足
- 集落の共同作業(草刈り、道普請、堰浚い等)
- 耕作放棄地の増加・農地の維持管理
- 鳥獣被害の増加
- 集落行事の維持継続
- 空き家の増加・維持管理
- 高齢者等の移動・交通手段
(買い物、通院、遊び等、特に免許返納後)
- 高齢世帯等の除雪
- 高齢者等の悩み事の相談・対応
- 高齢者等の健康づくり・生きがいづくり
- 高齢世帯等の見守り
- 高齢者等の集える場づくり
- 住民同士・世代間の交流の場づくり
- 子ども・若者の減少による活力低下
- 消防団員の減少
- 地域の歴史文化遺産の継承
- 自然環境の保全・利活用

対応すべき分野

- 農業を基盤とする産業振興
- コミュニティの維持・活性化
- 共に学び育てる環境の整備
- 生涯を通じた健康づくりの支援
- 安全安心で住みよい生活環境づくり
- 自然環境の保全・利活用
- 共に支え合う活動の展開

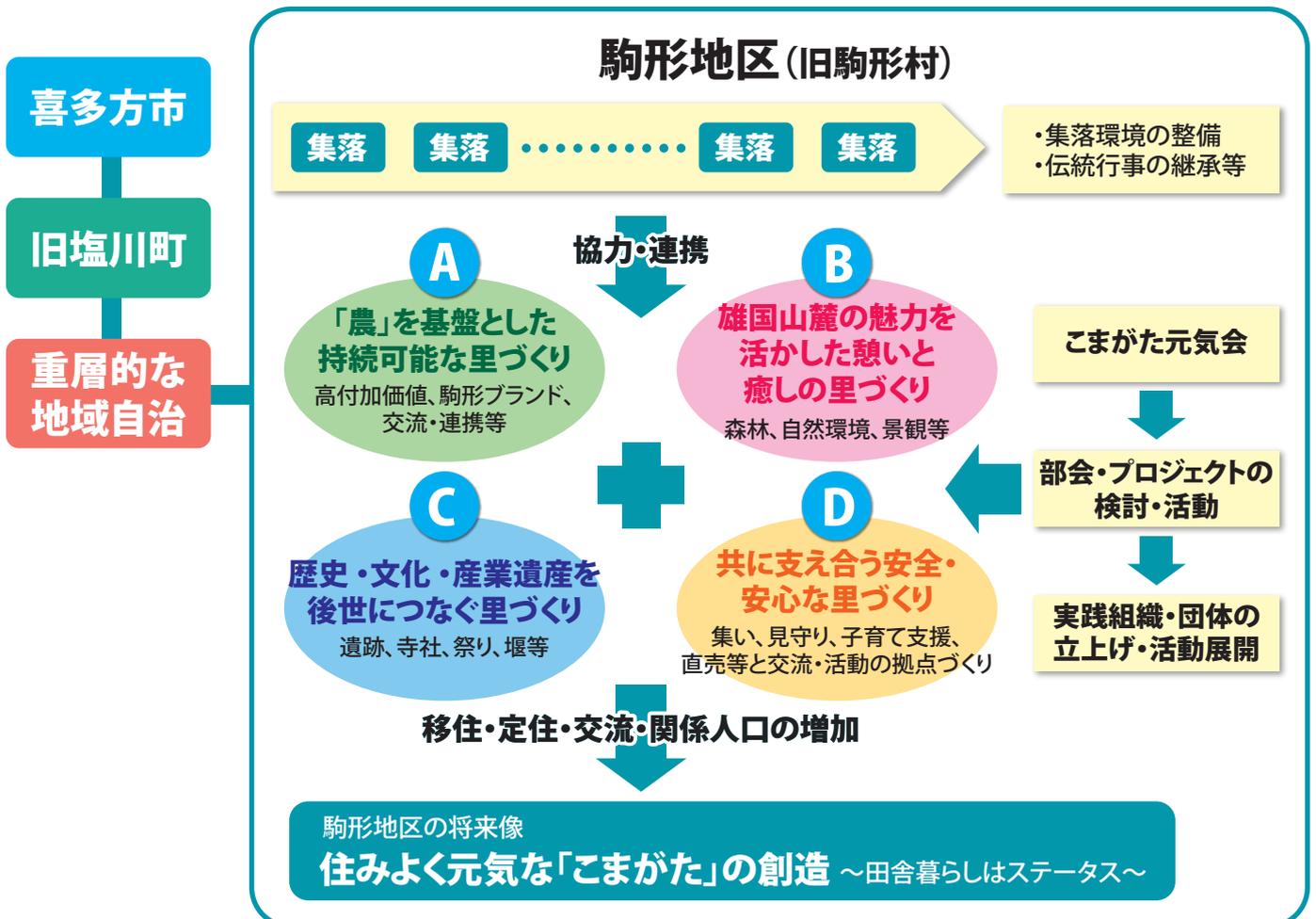
将来像の実現に向けた重点的な取組分野と基本的な取組構想【グランドデザイン】

駒形地区の課題に対応し、将来像『住みよく元気な「こまがた」の創造』を実現するためには、地区内の住民、各集落、関係団体等が協力連携し、市等行政の支援を得ながら、駒形地区が主体的に活動を展開することが不可欠です。

地域を維持するには、行政に全てを任せておけばよいというものではなく、また、集落は身近な生活環境の整備や伝統行事の継承等を今後も担っていくことになり、新たな課題に対応するには困難も伴います。

そこで、旧駒形村時代からのまとまりがあり、小学校区とほぼ重なり、各種団体等も活動の地盤としている「駒形地区」の役割は大きく、喜多方市、旧塩川町、駒形地区、そして集落がそれぞれ役割を分担して地域づくりを担う「重層的な地域自治」の中で、駒形地区の総力を結集して新たな活動を展開しようとするものです。

活動の展開にあたっては、駒形地区の対応すべき分野について、4本を柱とする重点的な取組分野に整理し、これらを総合的に進めるための取組構想「元気な駒形の里づくり」グランドデザインを以下の図のとおり設定しました。





◆重点的な取組分野と具体的な取組 「農」を基盤とした持続可能な里づくり



雄国山系と駒形山麓

時期・期間	取組案（事業・活動）	実施主体		
		地 区	行 政	企 業 等
すぐにでも 取りかかれるもの	<ul style="list-style-type: none"> ○身の程知らぬ「柿のまるごと活用実践検討部会」の継続(柿の商品化) ○元気な農家の懇談会 (担い手農家等の情報交換の場) ○グリーンツーリズム連携会議・子どもたちの体験交流の拡大 ○地元産品の活用・特産品開発に向けた研究会 (塩漬けシソとシソおにぎり等) ○農村環境整備・遊休農地の活用等に関する検討会 (遊休農地・空き家等の状況把握～実践活動組織の立上げ等検討) ○ミニ直売所の設置 (D 関連) 	●		●
長期的に 取り組むもの	<ul style="list-style-type: none"> ○駒形そばの食事処開設 (D 関連) ○喜多方ラーメンの麺を全て駒形産小麦にしようプロジェクト (関連で、うどん、米粉麺等の普及も) ○クラインガルテン (簡易宿泊施設付き市民農園)の開設(旧営林署苗畑の利用を検討) (B 関連) 	●		●
		●	●	●

B

◆重点的な取組分野と具体的な取組 雄国山麓の魅力を活かした憩いと癒しの里づくり

貴重な生物資源の保護と 啓発活動の促進

杓子ヶ入メグスリノキと
その後継木の保全・育成等



杓子ヶ入メグスリノキ

自然を丸ごと体感する 体験活動の充実・発展

これまでの桜祭りや雄国山麓
ゆめクラブの行うトレッキング事業等の継続
・発展 新たな体験メニューづくり等



駒形堰

「農」と連携した体験活動の 充実・発展

これまでのソバの花ウォーク等の継続・
発展グリーンツーリズム
(農泊と農業体験)の促進等



駒形そば畑景観

歴史・文化・産業遺産を 学ぶ体験活動の充実・発展

遺跡・寺社等めぐり、堰めぐり等



狐堰と開削記念碑

新たな景観の創造

地域にマッチした花木(群生地のあるヒガンバナ等)の植栽等

時期・期間	取組案(事業・活動)	実施主体		
		地区	行政	企業等
すぐにでも 取りかかれるもの	<ul style="list-style-type: none"> ○メグスリノキ発芽プロジェクトの継続 ○花で彩る駒形の里づくり実践検討部会の継続 ○南原堤の保全・活用の継続・発展 ○現在のトレッキング・ウォーク等の連携会議 ○優れた景観の選定(駒形八景等)や俳句・短歌・絵画・写真等の顕彰事業 ○狐堰・駒形堰等をめぐるウォーク(駒形「哲学の道」等)(草刈体験を兼ね又は草刈り直後に)(C関連) ○ガイドマップ・パンフレット等の作成(C関連) 	●		
長期的に 取り組むもの	<ul style="list-style-type: none"> ○旧登山道の復活・整備 ○新たな体験型レクリエーションの開発(フットパス、トレイルランニング、ツール・ド・駒形等) ○クライנגルテンを拠点とした交流・体験活動(A関連) ○多目的レクリエーション施設の設置(機能:交流・スポーツ・アクティビティ・健康・休養・学習等 場所:旧営林署苗畑の利用を検討、例:展望台・広場・屋内外スポーツ施設・図書館・北欧サウナ等) ○桜並木、●●並木の整備 ○いずれはジビエ(野生動物の肉)料理! 	●	●	●



◆重点的な取組分野と具体的な取組

歴史・文化・産業遺産を後世につなぐ里づくり



竹屋観音寺



八百比丘尼



田中集落の御田植え祭り



中屋沢竹ノ花遺跡発掘



藤権現遺跡の発掘

学び

情報発信

交流

時期・期間	取組案 (事業・活動)	実施主体		
		地区	行政	企業等
すぐにでも 取りかかれるもの	<ul style="list-style-type: none"> ○八百比丘尼尊にあやかる美と長寿の里づくり茶話会の継続 (講話会、絵本作成等) ○田中集落御田植え祭りへの協力 ○遺産めぐりウォーク・歴史講座 ○伝統の技を継承する学習会 (しめ縄、祭りの笛・太鼓等) ○ガイドマップ・パンフレット等の作成 (B 関連) ※は地区公民館との連携を検討	● ● ● ● ●	※ ※	
長期的に 取り組むもの	<ul style="list-style-type: none"> ○会津三十三観音巡り (竹屋観音寺) 関連事業の検討 ○埋蔵文化財センターの開設 	●	● ●	

D

◆重点的な取組分野と具体的な取組 共に支え合う安全・安心な里づくり —交流・活動拠点づくり—



時期・期間	取組案 (事業・活動)	実施主体		
		地区	行政	企業等
すぐにでも 取りかかれるもの	<ul style="list-style-type: none"> ○生活支援支え合い会議の継続・具体的活動の検討と実施 ○高齢世帯等への声掛け・見守り活動の開始 ○地区全体の交流・活動拠点(里の駅)の整備 (こまがた元気会が主体) ○集落等身近なところへのサロン開設 (生活支援支え合い会議が主体) ○活動推進のための連絡員・協力員の配置 (保健委員制度の活用等) ○駒形小学校との連携・協働 ○子育て支援・世代間交流事業等の検討 	●		
長期的に 取り組むもの	<ul style="list-style-type: none"> ○里の駅を拠点とした事業の順次拡大 ○雪かき隊・草刈り隊の立上げ(A 関連) ○お出かけワゴン(バス)の運行 	●	●	●

駒形地区の住民全員が、ともに知恵を出し合い、力を合わせ、この豊かな『こまがた』を将来にわたって、自らの力で守り、創り上げていきましょう。